

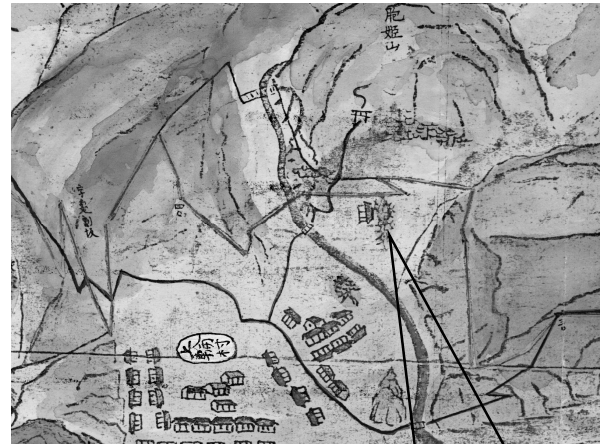
「柏崎の橋」

5 亀生橋

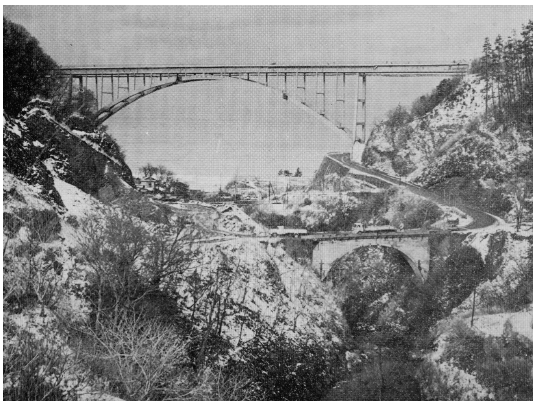
昭和30年代の国道8号線の大規模舗装・改良工事は、昭和41年の米山大橋の開通により完了したが、その前年に上輪橋が開通した。上輪橋開通前の旧国道は、払川を上流まで迂回し、亀生橋を経由しなければならなかった【写真①】。

北国街道時代の上輪地区は鉢崎～笠島～青海川間の米山三里中にあり、交通の難所であった。明治11年(1878)の明治天皇北陸御巡幸の際、米山三里では馬車を使えなかったため、陛下は御板輿に乗替えられ、供の者は徒歩で進んだ。(柏崎市史下巻)これを契機に、明治13年(1880)に改修工事が決定した。当時新潟県で、道路改修に国費補助を受けたのは、米山三里と親不知のみであった。明治14～16年に困難を極めた工事が行われ、旧道より900m余り延長され、ようやく馬車が通れる道となった(米山三里改修史)。

この工事の際に使われた測量図には、胞姫神社への参詣道途上の、現在の亀生橋付近に、橋が描かれている【写真②】。なお、慶長2年(1597)年の「越後国郡絵図一(頸城郡)」では、亀生橋に相当する位置に、橋は描かれていない。(柿崎町の歴史)



② 舊壹等線
路修築測量
之圖
從中頸城郡
鉢崎村至刈
羽郡鯨波村



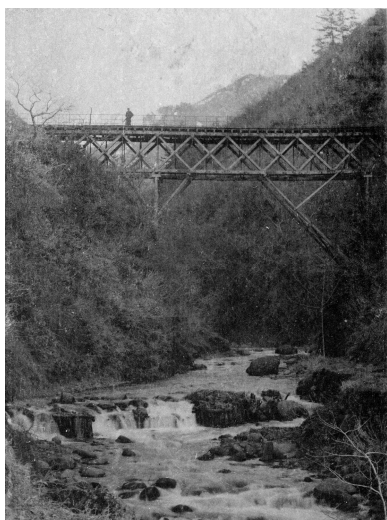
① 「新旧二つの上輪橋 米山三里の新しい名所に」
昭和41年1月1日付 越後タイムス掲載写真

胞姫神社は、安産祈願の参詣客で往時から賑わっている。文治2年(1186)、源義経が奥州平泉への都落ちの道中、北の方静御前が亀割坂(上輪橋の東端と上輪集落の中間付近)で産気づき、この神社で安産祈願をした効能により、無事に亀若丸を出産し、胞衣(えな: 胎児を包んでいた臍帯、胎盤、膜のこと)を胞姫神社に納めたとの伝説があり、亀生橋の名もこれに由来すると思われる。明治末から大正の亀生橋は、現在とは異なり、吊橋(トラス橋)である【写真③】。昭和12年度に、新潟県は米山三里を延長2km、幅5.5mの観光道路として改修するため3万円の予算を計上したが、戦争の激化により完成には至らなかった。(柿崎町史) 上輪大橋完成後、胞姫神社の参

詣客が、上輪大橋の西端から通行できるようになってから、亀生橋を利用する人は、ほとんどなくなった。

●参考にした本

柏崎市史 下巻（224 柏シヘ）28ページ
米山三里改修史『柏崎の民俗と余録』所収
山田良平（382 ヤマ）277～281ページ
柿崎町史 柿崎町史編纂會（232 カキ）41
3ページ
柿崎町の歴史（町史研究）第2集
新潟県柿崎町（232 カキ 2）27ページ



③米山三里ノ内上輪ノ釣橋
小竹コレクション絵葉書